

消防団長紹介

豊能町消防団 団長 東浦 正純

豊能町は、大阪府の北部に位置し、北に能勢町及び京都府亀岡市、東は茨木市、南に箕面市、そして西は兵庫県川西市にそれぞれ隣接しており、標高600メートルを超える北摂連山の中にあります。明治22年市町村制の施行により余野村、川尻村、木代村、切畑村、野間口村が合併し東能勢村と称し、昭和28年町村合併促進法の制定により隣接の吉川村と合併、同30年に茨木市から高山地区を編入し、同33年には京都府亀岡市の牧、寺田地区を編入しました。昭和52年の町村制施行により豊能町消防団と改名し、現在に至っています。特産物は江戸時代から栽培され、なにわの伝統野菜に認証されている「高山真菜、高山ごぼう」があります。特産品のヤーコンや高山右近の誕生地「豊能町」の米と洗礼地の「奈良県宇陀市」の水が出会って誕生した純米吟醸「右近」があります。

豊能町消防団は、明治時代の消防組、昭和初期の警防団を経て、昭和23年8月29日に東能勢村消防団（5分団）を結成。昭和30年代の町村合併や昭和40年代の住宅開発に伴い、団組織を3方面隊11分団1機動隊に改組しました。平成21年4月に役場職員を構成員とした機能別消防団員制度（団本部付団員22名）を発足し、現在2方面隊9分団（団員定数210名）で組織しています。

装備は、消防ポンプ自動車4台、小型ポンプ付積載車6台を擁しています。主な活動は、春と秋の総合訓練、夏には規律訓練と小型ポンプ操法訓練を実施。また、近年の異常気象による土砂災害を想定した水防訓練を隔年で実施し、予防週間中は、のぼり旗や防火パレードによる広報活動を行っています。

団長は、平成2年4月1日入団以来、班長、部長、副分団長を務められ、平成19年4月1日分団長、平成20年4月1日分団長（団本部付）、平成24年4月1日副団長、平成26年4月1日には団長に任命されました。

団長は、入団前の昭和60年7月に自宅付近の地すべり災害における分団員の懸命な活動（昭和63年6月に大阪の消防大賞を受賞）や平成元年の大阪府消防操法大会（小型ポンプ操法の部）で地元分団が優勝されたので一日も早い入団を望まれていました。

入団後は、諸先輩方から「郷土愛と消防精神」を学び、多方面にわたるご指導のお陰で、団長の職につかれさました。そして、27年ぶりに大阪府消防操法大会で優勝し、40年ぶりに全国消防操法大会に出場したことは、入団当時の願いが叶い、一生涯の思い出となったそうです。

団長の人柄は穏やかで、常に周りの意見や状況によりの確な判断を下すと共に、説得力に富み責任感旺盛です。職業は電気設備会社を経営されており、趣味はゴルフで、お酒は日本酒が好みです。

少子高齢化時代と共に社会が変わっても、かけがえのない重要な存在である消防団の一員であることを誇りに思います。人口減少は今後も進むと思われませんが、若い世代の方々に、消防団の魅力を感じてもらえるような団運営を行い、住民に愛され尊敬されるよう日々訓練を重ね、団の充実強化に取り組んで行く所存であります。